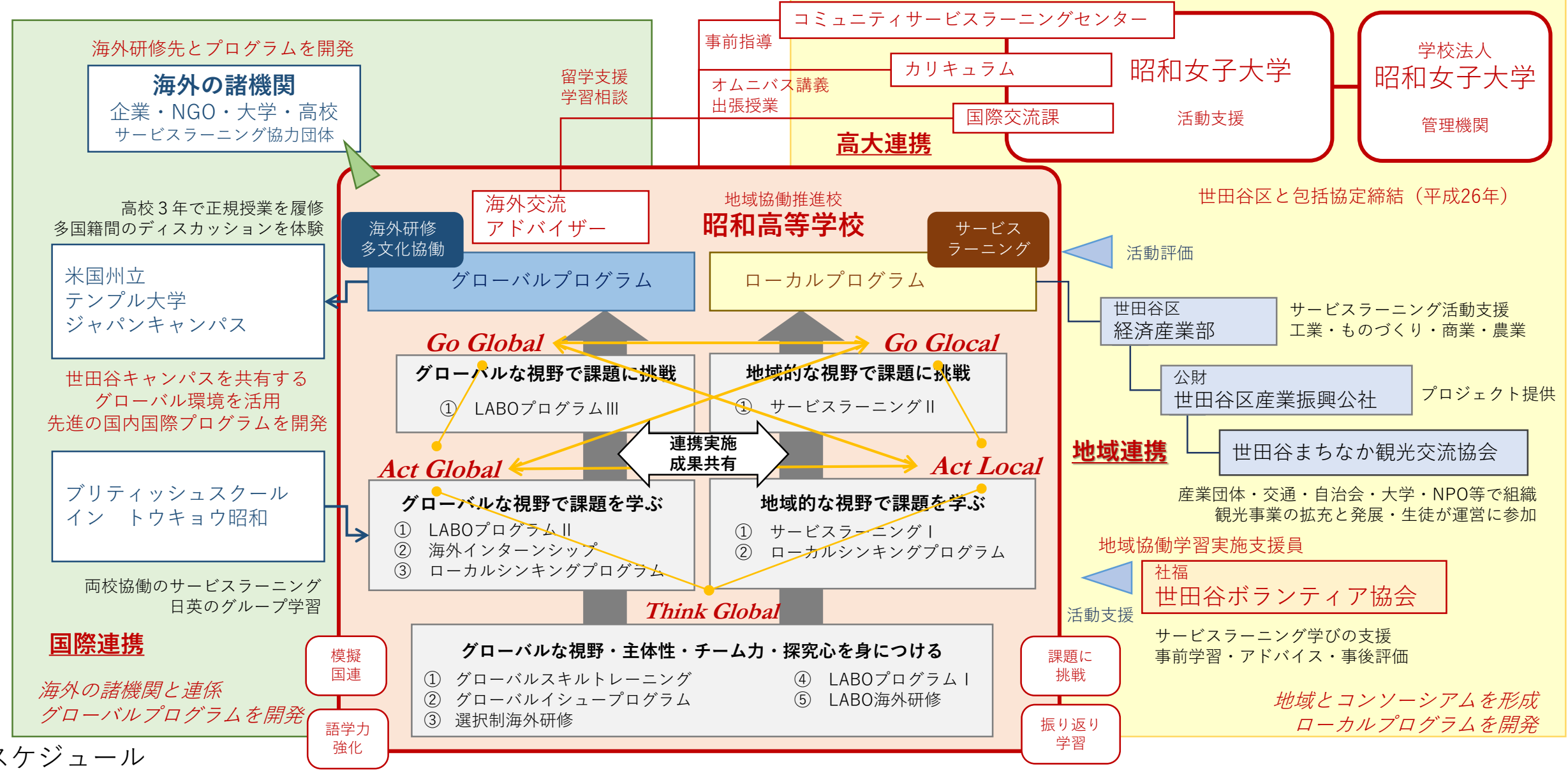
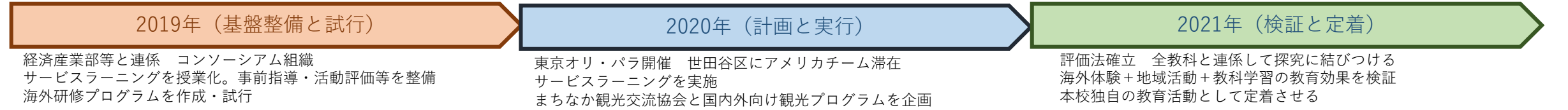


● 本事業の全体像



● スケジュール



ふりがな	がっこうほうじんしょうわじょしだいがく	ふりがな	しょうわじょしだいがくふぞくしょうわこうとうがっこう
管理機関名	学校法人昭和女子大学	学校名	昭和女子大学附属昭和高等学校

2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 実施体制の概要

1 管理機関・学校の概要

(1) 管理機関名、代表者名

管理機関名：学校法人昭和女子大学

代表者名：理事長 坂東眞理子

(2) 学校名、校長名、研究を実施する学科

学校名：昭和女子大学附属昭和高等学校 学科：■普通科 □専門学科 □総合学科

校長名：金子朝子

2 取組内容

いま全世界で取り組んでいる持続可能な開発目標（SDGs）の活動を視察し、目的や活動内容を学び、地域でできる活動は何かを考え行動できる力を育成する。

本事業は、問題の本質を見出し、多様な住民・人材・専門家と協働し、主体的に学び考え行動できる人材を育成することを目的とする。Society 5.0 といわれる未来社会において必要となる力、社会を牽引する人材を育成する地域社会参与教育プログラムの構築を目指す。

3 管理・運営方法

(1) 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者名
世田谷区 経済産業部 産業連携交流推進課	羽川隆太 課長
公財) 世田谷区産業振興公社	小田桐 庸文 副理事長
社福) 世田谷ボランティア協会	興 裕 寛 理事・昭和女子大学特任教授
昭和女子大学	米倉雪子 准教授

(2) 将来の地域ビジョン・求める人材像等の共有方法

世界のあらゆる国々で文化の違いを越えて課題に取り組む人材、チームをまとめることができるグローバル人材・グローバルリーダーを育成するという目的をコンソーシアム全体で共有する。地域の人的・物的資源を活用し、生徒がグループでサービスラーニングを実践する。

(3) コンソーシアムにおける研究開発体制

世田谷区産業振興公社が生徒のプロジェクト活動の場を提供

世田谷ボランティア協会が生徒のサービスラーニング活動を支援

昭和女子大学がSDGsに関する講座を提供

昭和女子大学の事務部門が海外留学を支援

高等学校の教育研究科がサービスラーニング・海外研修・教科学習が連携する探究を具体化する。

(4) カリキュラム開発等専門家（地域魅力化型・プロフェッショナル型）、海外交流アドバイザー（グローバル型）の指定及び配置計画

1年目は海外交流アドバイザーを配置して海外研修の場の開拓とプログラムの計画を担当する。2年目からは大学の国際交流課の支援を受ける。

(5) 地域協働学習実施支援員の指定及び配置計画

世田谷ボランティア協会理事・昭和女子大学特任教授に地域活動の指導を依頼する。

(6) 運営指導委員会の体制

外部研究者、企業のSDGs担当者、世田谷区関係者で運営指導委員会を設置する。

(7) 研究成果報告・事業成果の検証に向けた計画

インターネット・SNSを活用して日常的に情報を発信する。また、シンポジウムやポスターセッションなどで事業成果を検証する。

(8) 管理機関又はコンソーシアムによる主体的な取組・支援

ブリティッシュスクール生徒と協働のサービスラーニング活動、テンプル大学ジャパンキャンパスの単位履修など、グローバルな環境を提供する。また、海外キャンパス・昭和ボストンでサービスラーニングのプログラムを開発する。

(9) 事業終了後の継続的な取組の実施に向けた計画

事業終了後はプログラムを完成させ、サービスラーニングを探究活動に位置づけ全教科と結びつける。労働力を提供するボランティアから住民と協働のプロジェクトに変えて継続実施する。

2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要

指定期間	ふりがな	しょうわじょしたしめいぐふぞくしょうわこうとうがっこう				②所在都道府県	
2019～2021	①学校名	昭和女子大学附属昭和高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	併設型中高一貫校 高校：565名（中学は587名） 1年199名、2年178名、3年188名	
普通科 (本科クラス)	126	136	172				
⑥研究開発構想名	都市型社会課題への発信力を育成するクロスサービスラーニングプログラム						
⑦研究開発の概要	<p>①高校1年次を「Think global」期とし、グローバル社会を直接体験する海外交流を中心に、研究の基礎を学びながらグローバルな視野を育成する。②高校2年次を「Act local」「Act global」期、高校3年次を「Go Glocal」「Go Global」期と設定し、大学や自治体と連動して自らが地域の活性化のために発信・実践する社会参与学習「サービスラーニング」、世界で活躍できるリーダー像を探究する「LABO活動」を実施する。大学や企業・地域自治体と緊密に連携した社会参与学習プログラムを編成し、本校のグローバルプログラムと、地域貢献型サービスラーニングとを有機的にクロスさせ、国際的素養を地球規模の課題だけでなく地域課題の課題と結び付けて考え、自分なりの解決プランを実践できるグローバル人材を育成する。</p>						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>現在世田谷区では、2020年の東京オリンピックに向けて、オール世田谷で地域の人々が参加する具体的な活動の準備を進めている。こうした機会をとらえ、地域という身近なコミュニティで課題解決のために主体的に学び、行動できる人材を育成する。</p> <p>地域を舞台に活躍できる人材育成のために、大学や企業・地域自治体と緊密に連携した社会参与学習プログラムを編成し、本校の海外研修をはじめとするグローバルプログラムと地域貢献型サービスラーニングとを有機的に結び付けることで、グローバルに培った学びを身近な諸活動に深化させていくグローバル意識を持った人材を創出することをめざす。</p> <p>①世田谷区が抱える課題に敏感になり、「社会的責任感」、「人間性」を育成して、コミュニティと積極的に関わろうとする人材を育成する。</p> <p>②社会的な人材育成を行うための探究活動プログラムを体系的に構築し、論理的・批評的に物事を考える能力を育成する。</p> <p>③グローバルな取り組みと地域探究など諸活動をクロス化させることによって探究活動の質の高度化をはかり、総合的な学ぶ力を育成する。</p> <p>④生徒の中に、地域のためにより有益な行動をしようとする意識を涵養していくために、恒常的な産官学連携・地域連携コンソーシアムを形成する。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>本校が位置する世田谷区は成熟期にあたるが、様々な都市型社会問題を抱えている。一方で、外国人人口は約1万5千人にのぼり、共生社会としての課題も生まれている。</p> <p>こうした都市型の社会問題に対して、世田谷区は「地域・住民が主体となる街づくり」を掲げ、様々な領域と連携した施策や地域住民の区政への参加が求められている。</p> <p>2020年の東京オリンピック・パラリンピックでは、世田谷区も競技場・キャンプ地となっており、区では観光やスポーツ、国際、福祉などの分野で地域や大学等と連携を図り、オール世田谷で地域住民の参加による活動の高まりを目指している。</p> <p>本校は私立女子校ということもあり、区外からの通学者が多く、世田谷区との濃密な連携という点では課題がある。ただ、昭和女子大学は世田谷区と包括的な地域連携協定を結んでおり、大学レベルでは地域との協働学習の実績は厚く、こうした既存の組織を用いることで深い地域連携を組織する素地は整っている。</p>					

	<p>【仮説1】2020年の東京オリンピックを控えた世田谷区での住民参加の取り組みの機会を活用して、生徒が実社会で住民とともにボランティア活動と課題の解決策を考案・実践することで、社会活動に参加する意義と協働の大切さを学び、自己肯定感を持って主体的に学び、活動しようとする意欲を持たせることができる。</p> <p>【仮説2】研究手法の習得、研究を実践行動に移すというプログラムを体系的に構成し、効果的に探究スキルを習得できるようになり、知の総合化を図ることができる。また、中学から高校まで連続的な探究活動を構築すると、探求スキルや課題意識が年次を追って深まり、高校生段階でより高次の能力を効果的に育成することができる。</p> <p>【仮説3】世界の課題と地域の課題とをクロスさせて把握する機会、生徒のグローバル体験とローカル経験とをクロスさせて捉える機会など内容的な横断、探究活動と各教科で行うスキルトレーニングやアクティブ・ラーニングを結びつけて開発する方法的な横断の機会を設けることで、特定の知識や方法に偏らない、総合的な学びの力を育成できる。</p> <p>【仮説4】昭和女子大学や世田谷区、世田谷区産業振興公社など区内の団体と恒常的な協力関係を構築し、地域人材・グローバル人材との交流を持つ機会が充実することで、多角的な視点から課題解決に取り組むことができ、知の総合化を図ることができる。この活動で形成するコンソーシアムを用いて産官学連携を深め、地域課題の解決だけでなく、地域の活性化や地域貢献意識の向上を図ることができる。</p>
<p>⑧ -2 具 体 的 内 容</p>	<p>(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アカデミックスキルトレーニング(AST)：高1の前期に課題設定、情報収集・活用、論理的・批判的思考、プレゼンテーションなどの研究スキルを育成するプログラムを実施。 2. グローバルプログラム(GP)：グローバルに活躍する人材を招いて出張講義・講演を行うSDGsキャリア講演(高1)と選択制海外研修旅行(高1)、4つのグループでグローバルな課題のプロジェクト研究を行うLABO活動(高1～高3)を実施。 3. ローカルプログラム(LP)：地域社会の課題解決に向けて、生徒自身が世田谷区や地域社会との連携を図り、アクションプランの策定・実施を目標とする社会貢献活動型探究学習であるサービスマネジメント(高1～高3)と、地元の人材・団体を招いて、出張講義・講演を行うグローバルキャリア講演(高2)を実施。 4. 活動のクロス化と授業開発：GP・LPでの経験や内容の横断、ASTや各教科でのスキルとGP・LPとの方法的横断の機会を構築する。 <p>(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究開発に関わる各教科の授業開発に、「think global」「act local」「act global」「thinking skill」「active skill」などの指標を設け、開発した授業・教材の分類を行い、教材開発の効率化、活動のつながりの視覚化を行う。 ・地域課題の適切な把握と共有化を促進すべく、昭和女子大学、世田谷区などと恒常的なコンソーシアムを構築する協定締結を目標とし、国内・海外の協力機関との連携関係までを視野に入れた産官学の連携を進める。 ・e-ポートフォリオシステムを用いて、活動の即時的ポートフォリオ化を進めるとともに、アンケート配信なども行い、生徒の実態把握ができるようにし、本事業の評価や研究内容開発へと役立てる。 <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 特になし</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>なし</p>